

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2013年12月期 決算説明資料

2014年2月13日決算発表

執行役員 CFO

武藤 三郎

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

■ 連結子会社 42社: +4社

韓国昭和化学品(株) (化学品セグメント)
 四川昭鋼炭素有限公司 (無機セグメント)
 名古屋研磨材工業(株) (無機セグメント)
 昭光通商(上海)有限公司 (その他セグメント)

■ 持分法適用会社 15社: Δ4社

テクノ・ナミケン(株) (清算)
 三洋昭和パネルシステム(株) (売却)
 サミット昭和アルミ(株) (売却)
 昭和パーツ(株) (清算)

主要諸元

(期中平均)

	2012年		2013年		増減	
	通期	10-12月	通期	10-12月		10-12月
■ 為替レート (円/US\$)	79.8	81.2	97.7	100.5	17.8 円安	19.3 円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	55,050	55,800	65,250	67,800	10,200	12,000
■ アルミ地金 LME(US\$/T)	2,051	2,021	1,888	1,813	Δ163	Δ208

※2012年12月期末レート86.6円 2013年12月期末レート105.4円 ⇒ 18.8円円安

連結業績の概要

(億円)

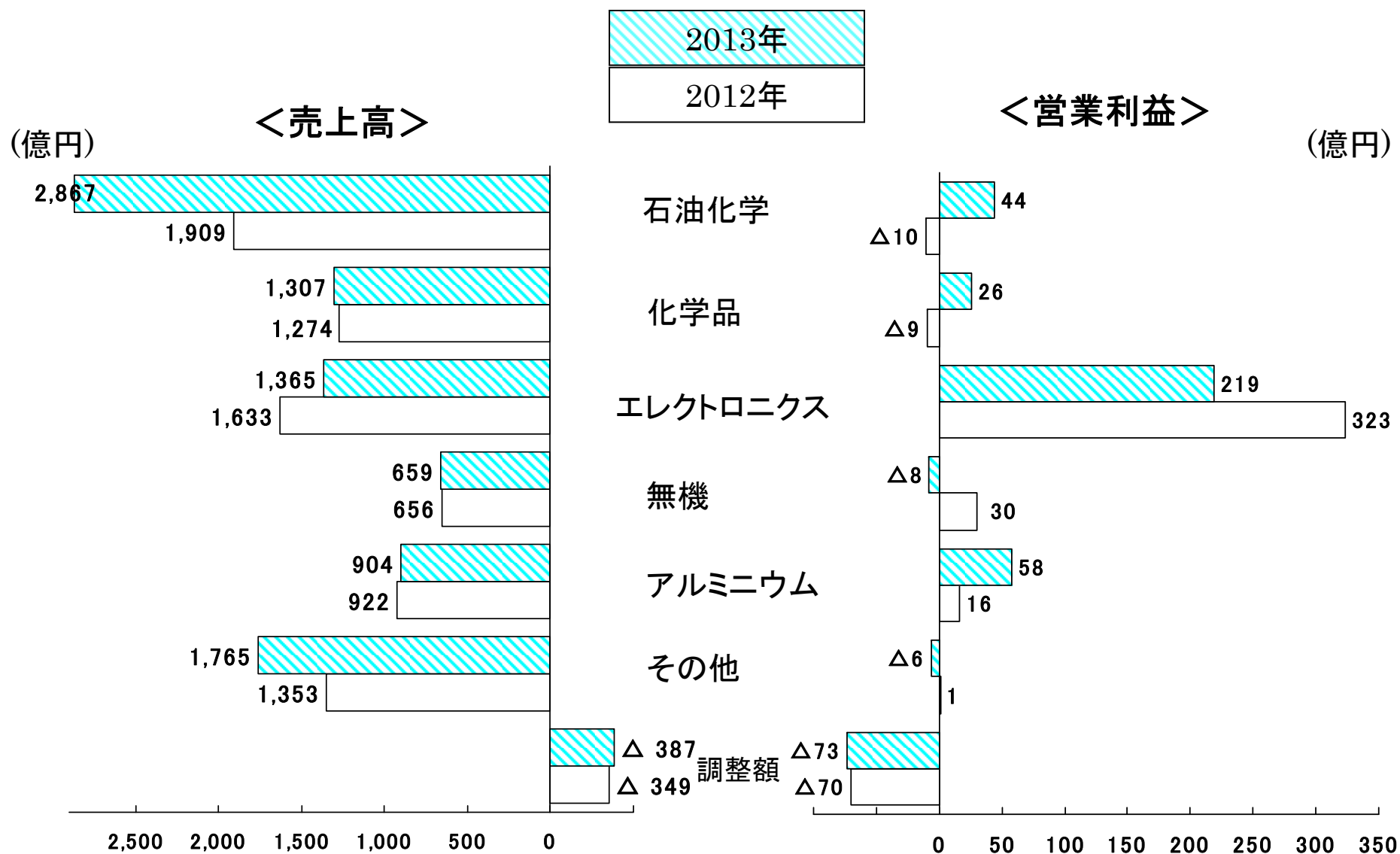
	2012年	2013年	増減
売上高	7,398	8,481	1,083
営業利益	281	260	△22
営業外損益	△47	△25	22
金融収支	△35	△28	7
持分法による投資利益	3	△3	△6
為替差損益	2	22	20
その他	△16	△15	1
経常利益	234	235	0
特別利益	8	63	55
特別損失	△130	△57	72
税金等調整前当期純利益	113	240	127
法人税等	△3	△138	△135
少数株主損益調整前当期純利益	110	103	△8
少数株主損益	△17	△12	5
当期純利益	94	91	△3
1株当たり当期純利益	6円26銭	6円06銭	△20銭
1株当たり期末配当金	3円	3円(予定)	—

特別損益の内訳

(億円)

	2012年	2013年	増減
■特別利益	8	63	55
●投資有価証券売却益	1	51	50
●契約解除補償金	-	8	8
●その他	7	3	△4
■特別損失	△130	△57	72
●固定資産除売却損	△20	△15	6
●減損損失	△35	△14	21
●投資有価証券評価損	△30	△5	25
●その他	△45	△24	20
■特別損益	△122	5	127

セグメント別業績の概要



連結売上高差異内訳

(億円)

	2012年	2013年	増減	項目
石油化学	1,909	2,867	958	オレフィン:増収(前期のエチレン設備不具合解消による数量増、価格上昇) 有機:増収(酢ビ、アリアルアルコール:数量増)
化学品	1,274	1,307	33	基礎化学品:増収(AN:市況上昇、クロロプレングム:数量増) 産業ガス:減収(数量減) 情報電子化学品:増収(数量増) 機能性化学品:増収(数量増)
エレクトロニクス	1,633	1,365	△268	HD:減収(数量減、HDD業界在庫調整) 化合物半導体:減収(GaN系青色LED事業譲渡) レアアース:減収(数量減、価格低下)
無機	656	659	3	セラミックス:増収(電子材料向け数量増) 電極:減収(数量減、価格低下)
アルミニウム	922	904	△18	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(ショウティック:数量増) アルミ缶:前年同期並み 昭和電工アルミ販売:「その他」へ移管
その他	1,353	1,765	412	LIB電池材料:増収(スマホ・タブレット向け数量増) 昭光通商:増収、昭光通商(上海):新規連結
調整額	△349	△387	△38	
合計	7,398	8,481	1,083	

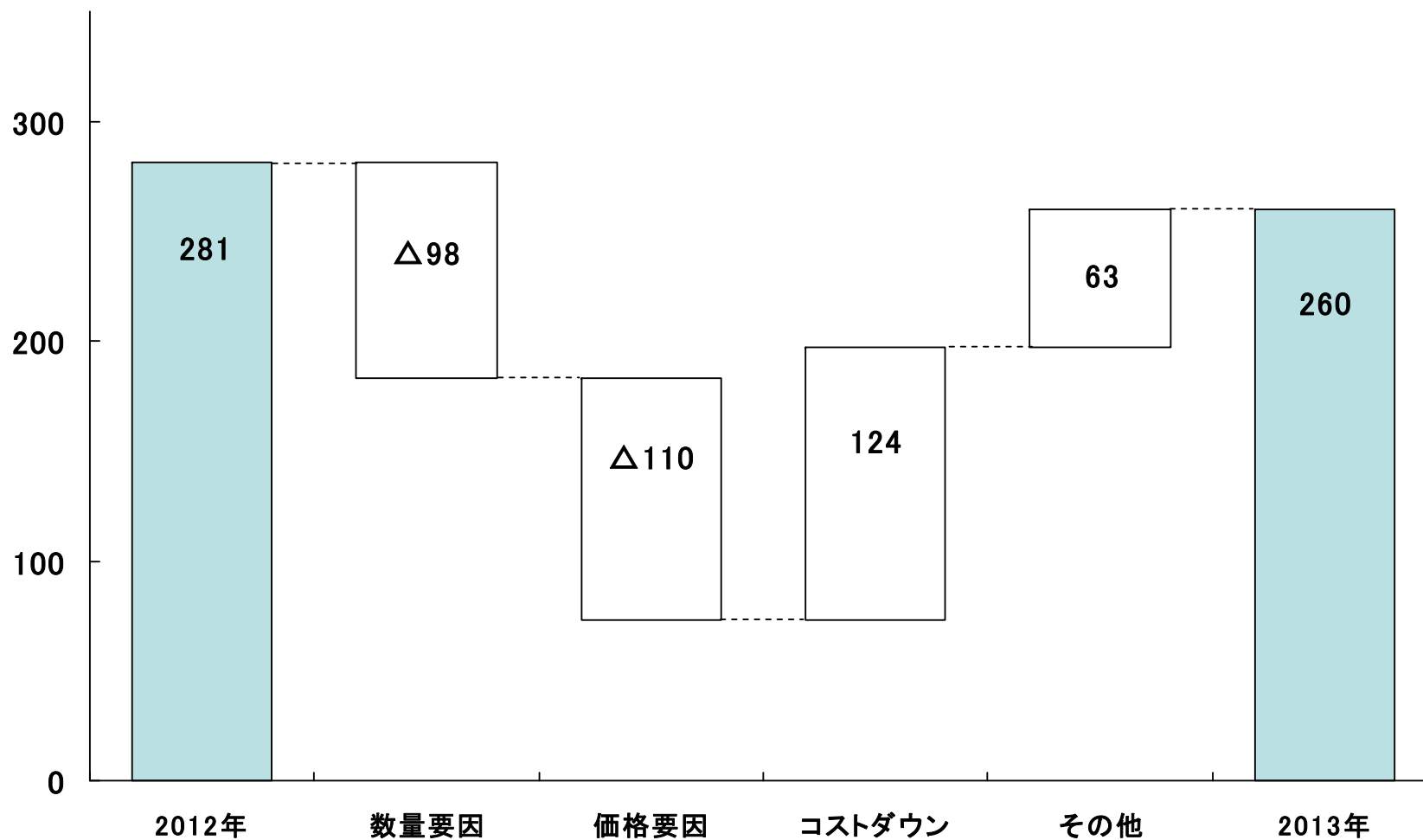
連結営業利益差異内訳

(億円)

	2012年	2013年	増減	項目
石油化学	△10	44	54	オレフィン:増益(前期のエチレン設備不具合解消による数量増) 有機:小幅増益(数量増)
化学品	△9	26	34	基礎化学品:増益(AN、クロロプレンゴム:増益、アンモニア:減益) 産業ガス、情報電子化学品、機能性化学品:増益
エレクトロニクス	323	219	△104	HD:減益(数量減) 化合物半導体:増益 レアアース:減益(棚卸資産の簿価切下げの影響、数量・価格低下)
無機	30	△8	△38	セラミックス:増益(電子材料向け数量増) 電極:減益(数量減、価格低下)
アルミニウム	16	58	43	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増益(ショウティック:数量増) アルミ缶:増益
その他	1	△6	△7	リチウムイオン電池材料:減益(固定費増) 昭光通商:増益、昭光通商(上海):増益(新規連結)
調整額	△70	△73	△3	
合計	281	260	△22	

連結営業利益差異分析

(億円)



連結貸借対照表

(億円)

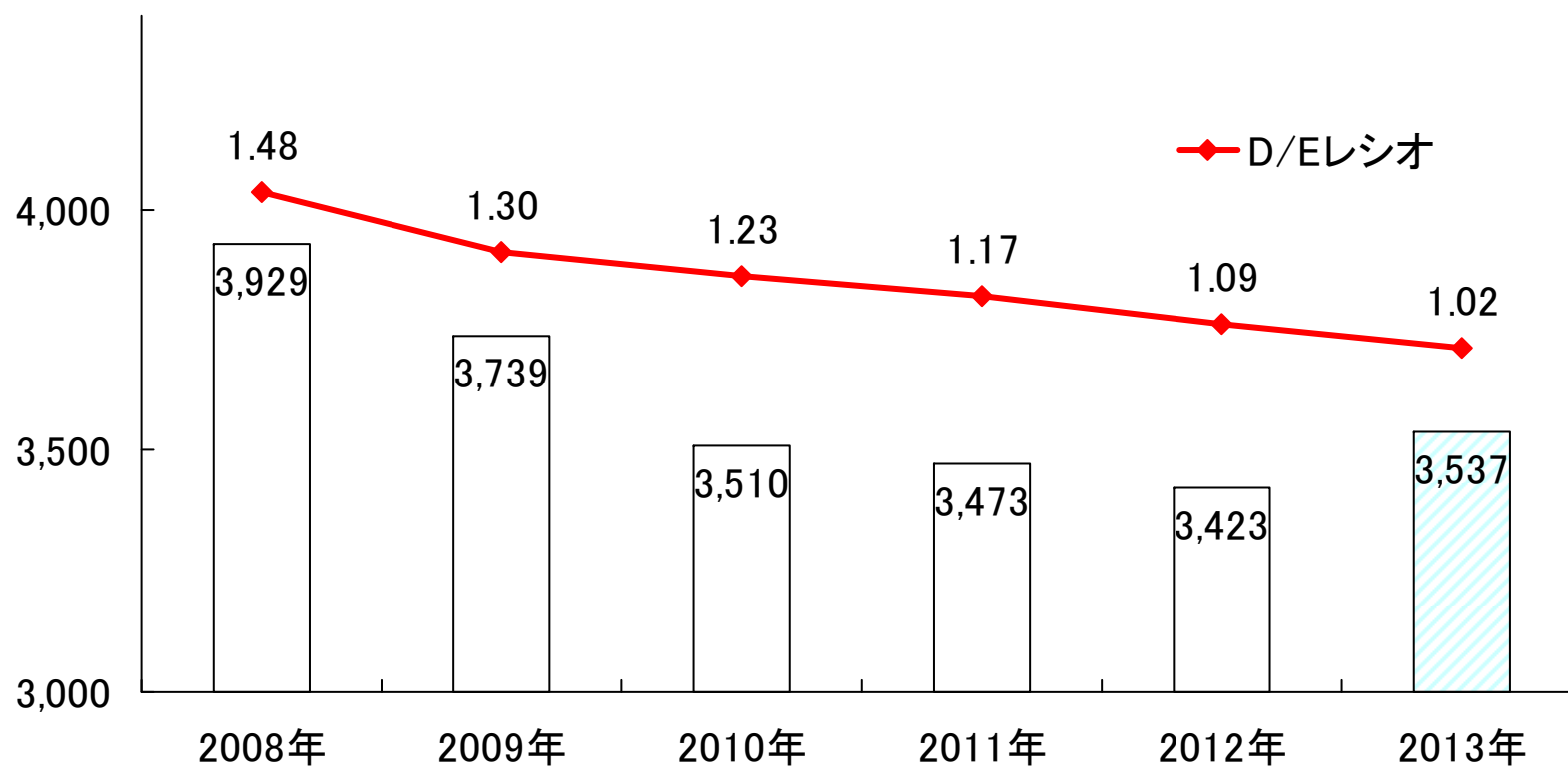
資産	2012年 12月末	2013年 12月末	増減	負債・純資産	2012年 12月末	2013年 12月末	増減
現預金	516	682	166	営業債務	1,072	1,242	170
営業債権	1,382	1,561	179	有利子負債	3,423	3,537	114
たな卸資産	1,218	1,202	△16	退職給付引当金	234	203	△31
その他	306	301	△4	その他	1,453	1,418	△35
<u>流動資産計</u>	3,421	3,746	325	<u>負債計</u>	6,182	6,400	218
建物・構築物	816	855	39	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,152	1,116	△35	資本剰余金	622	622	0
土地	2,543	2,546	3	利益剰余金	532	584	52
他有形固定資産	222	424	202	自己株式	△1	△1	0
<u>有形固定資産計</u>	4,733	4,941	208	<u>株主資本計</u>	2,558	2,610	52
無形固定資産	103	110	6	その他有価証券評価差額金	9	58	49
投資その他の資産	1,075	1,061	△14	為替換算調整勘定等	△120	64	184
(内、投資有価証券)	678	787	109	土地再評価差額金	280	279	△1
				<u>その他の包括利益累計額合計</u>	169	402	232
				少数株主持分	422	446	24
<u>固定資産計</u>	5,911	6,112	201	<u>純資産計</u>	3,150	3,458	308
資産合計	9,332	9,858	526	負債・純資産合計	9,332	9,858	526

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2012年末	2013年末	増減
■ 総資産	9,332億円	9,858億円	526億円
■ 有利子負債	3,423億円	3,537億円	114億円
■ D/Eレシオ	1.09倍	1.02倍	0.07p 改善
■ 自己資本比率	29.2%	30.6%	1.3p 増

連結有利子負債等の推移

(億円)



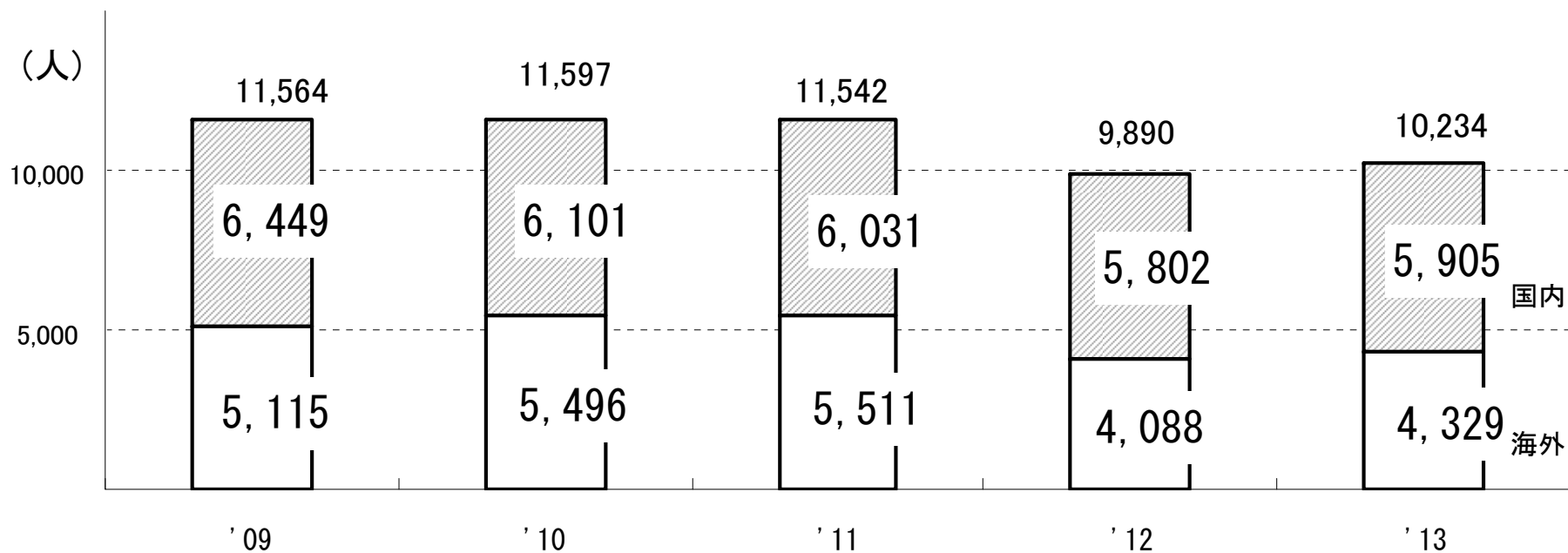
自己資本比率	25.0%	25.5%	26.1%	26.8%	29.2%	30.6%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

連結キャッシュ・フロー

(億円)

	2012年	2013年	増減
●営業キャッシュ・フロー	533	636	103
●投資キャッシュ・フロー	△402	△467	△65
●フリー・キャッシュ・フロー	131	168	37
●財務キャッシュ・フロー	△202	△68	133
●その他	33	56	24
現預金増減額	△38	157	194

連結総人員の推移と国内海外人員割合



国内割合	55.8%	52.6%	52.3%	58.7%	57.7%
海外割合	44.2%	47.4%	47.7%	41.3%	42.3%

セグメント別設備投資・減価償却

(億円)

	2012年		2013年		増減	
	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却
石油化学	37	72	29	64	△8	△8
化学品	85	92	67	73	△17	△19
エレクトロニクス	117	163	61	142	△56	△21
無機	84	34	183	31	98	△3
アルミニウム	43	61	63	43	20	△18
その他	59	41	40	44	△19	3
全社計	425	462	444	398	19	△65

主要諸元

	2012年	2013年	増減	2014年 予想	増減
●為替レート (円/US\$)	79.8	97.7	17.8	100.0	2.3
●国産ナフサ (円/KL)	55,050	65,250	10,200	65,700	450
●アルミ地金LME (US\$/T)	2,051	1,888	△163	1,820	△68
●有利子負債(億円)	3,423	3,537	114	3,550	13
●金融収支(億円)	△35	△28	7	△34	△6
●研究開発費(億円)	206	204	△2	202	△2
●期末従業員(人)	9,890	10,234	344	10,732	498
●総人件費(億円)	706	702	△5	761	59

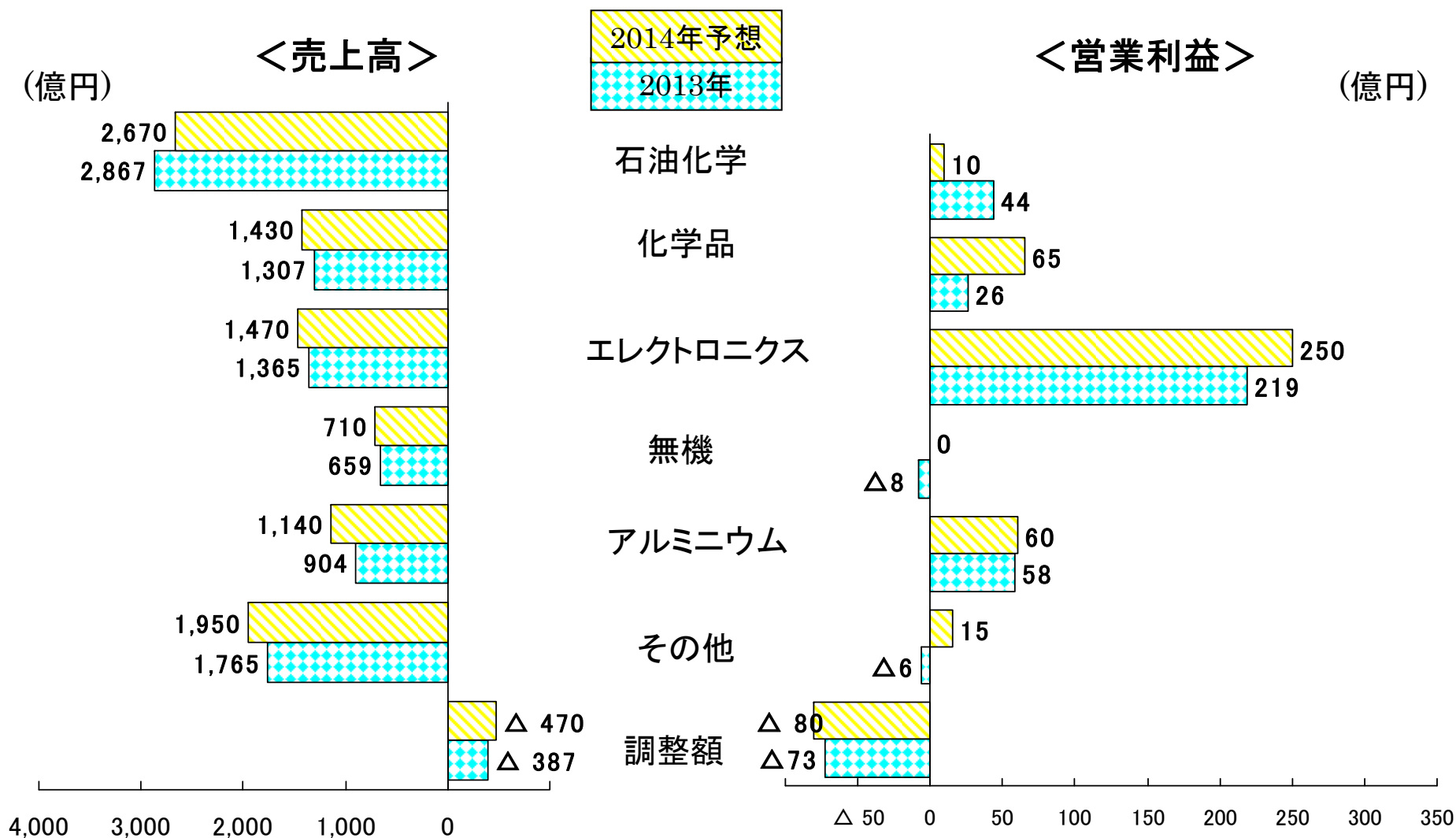
(注)連結ベースの数字で記載しております。

連結業績予想

(億円)

	2013年実績	2014年予想	増減
売上高	8,481	8,900	419
営業利益	260	320	60
営業外損益	△25	△70	△45
経常利益	235	250	15
特別利益	5	△80	△85
特別損失			
当期純利益	91	120	29
1株当たり当期純利益	6円06銭	8円02銭	1円96銭
1株当たり配当金	3円(予定)	3円	—

セグメント別業績予想の概要



セグメント別連結売上高予想

(億円)

	2013年 実績	2014年 予想	増減予想	コメント
石油化学	2,867	2,670	△197	大型定修による数量減
化学品	1,307	1,430	123	基礎化学品、情報電子化学品：増収
エレクトロニクス	1,365	1,470	105	HD：前期並み レアアース：増収
無機	659	710	51	セラミックス：増収 黒鉛電極：増収
アルミニウム	904	1,140	236	圧延品：増収(数量増) 機能部材：増収(数量増) アルミ缶：増収(ベトナム子会社)
その他	1,765	1,950	185	昭光通商：増収
調整額	△387	△470	△83	
合計	8,481	8,900	419	

セグメント別連結営業利益予想

(億円)

	2013年 実績	2014年 予想	増減予想	コメント
石油化学	44	10	△34	大型定修による数量減
化学品	26	65	39	基礎化学品、情報電子化学品：増益
エレクトロニクス	219	250	31	HD：減益 レアアース：増益
無機	△8	0	8	黒鉛電極：増益
アルミニウム	58	60	2	圧延品：増益
その他	△6	15	21	LIB電池材料：増益
調整額	△73	△80	△7	
合計	260	320	60	

連結キャッシュ・フロー予想

(億円)

	2013年	2014年予想	増減予想
●営業キャッシュ・フロー	636	650	14
●投資キャッシュ・フロー	△467	△600	△133
●フリー・キャッシュ・フロー	168	50	△118
●財務キャッシュ・フロー	△68	△121	△53
●その他	56	4	△52
現預金増減額	157	△68	△225

セグメント別設備投資・減価償却予想

(億円)

	2013年		2014年予想		増減予想	
	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却	設備投資	減価償却
石油化学	29	64	44	66	15	2
化学品	67	73	91	73	24	0
エレクトロニクス	61	142	105	128	43	△14
無機	183	31	136	41	△47	10
アルミニウム	63	43	102	53	40	10
その他	40	44	41	49	1	5
全社計	444	398	520	410	76	13

(ご参考) 連結業績の概要(4Q前年同期対比)

(億円)

	2012年10-12月	2013年10-12月	増減
売上高	1,929	2,305	377
営業利益	43	101	58
営業外損益	△6	10	16
金融収支	△8	△7	1
持分法による投資利益	6	3	△3
為替差損益	7	14	7
その他	△11	0	11
経常利益	37	111	74
特別利益	3	43	40
特別損失	△53	△20	33
税金等調整前四半期純損益	△13	134	147
法人税等	△2	△110	108
少数株主損益調整前四半期純損益	△15	25	39
少数株主損益	△4	1	3
四半期純損益	△19	23	42

(ご参考) 連結売上高差異内訳(4Q前年同期対比)

(億円)

	2012年 10-12月	2013年 10-12月	増減	項目
石油化学	595	792	196	オレフィン:増収(数量増、価格上昇) 有機:増収(数量増)
化学品	329	351	22	基礎化学品:増収(AN:市況上昇、 クロロプレンゴム:数量増) 産業ガス:増収(ドライアイス:数量増) 情報電子化学品:増収(海外向け数量増) 機能性化学品:増収(数量増)
エレクトロ ニクス	360	373	13	HD:増収 化合物半導体:減収(GaN系青色LED事業譲渡) レアアース:増収(数量増)
無機	165	170	4	セラミックス:増収(数量増) 電極:減収(数量減、価格低下)
アルミニウム	223	232	9	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増収(ショウテック:数量増) アルミ缶:前年同期並み 昭和電工アルミ販売:「その他」へ移管
その他	339	492	153	リチウムイオン電池材料:増収(自動車向け数量増) 昭光通商:増収、昭光通商(上海):新規連結
調整額	△83	△104	△21	
合計	1,929	2,305	377	

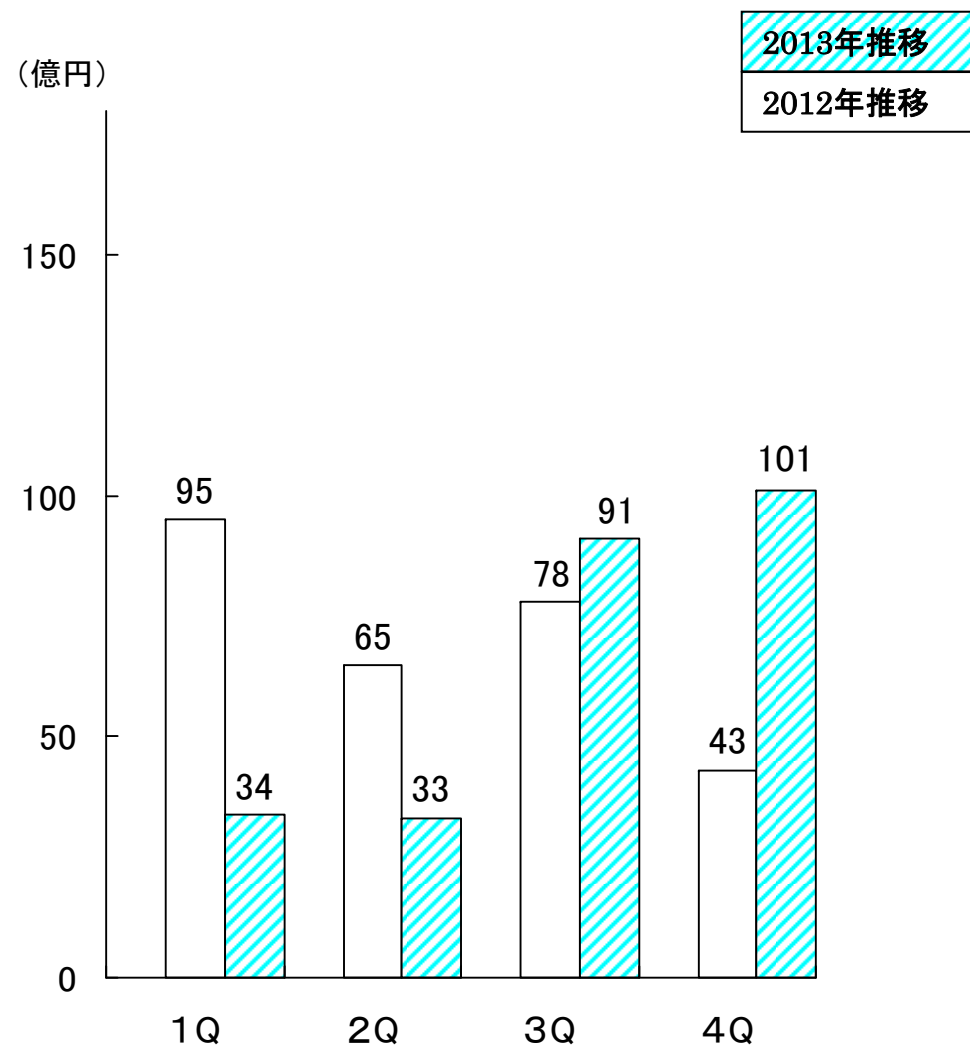
(ご参考) 連結営業利益差異内訳(4Q前年同期対比)

(億円)

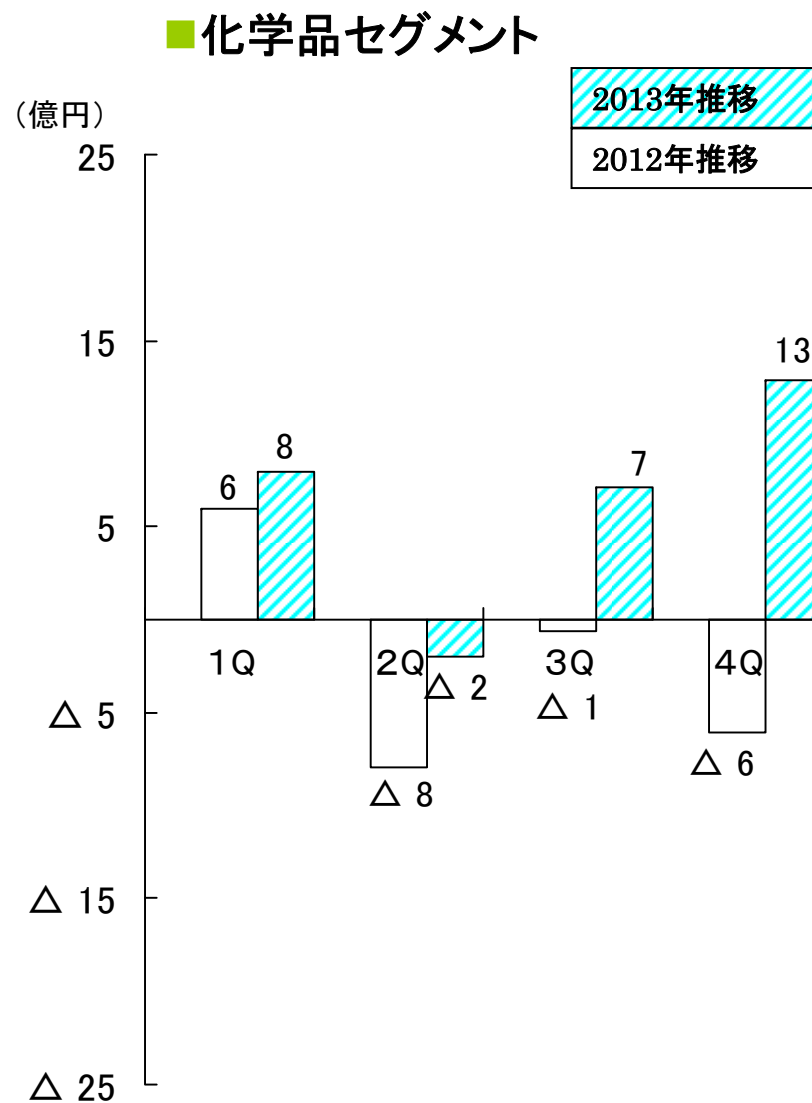
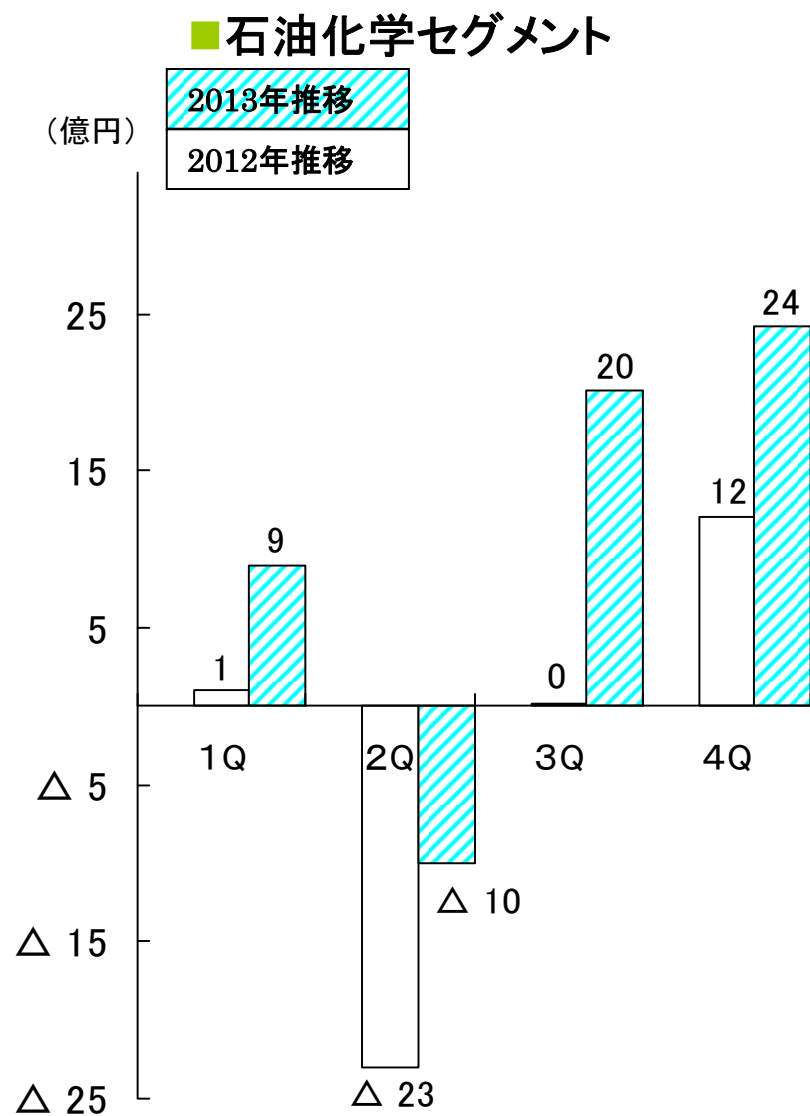
	2012年 10-12月	2013年 10-12月	増減	項目
石油化学	12	24	12	オレフィン:増益(市況上昇) 有機:小幅減益
化学品	△6	13	19	基礎化学品:増益(AN、クロロプレンゴム) 産業ガス:増益 情報電子化学品:増益(海外向け数量増) 機能性化学品:増益(原料高反映)
エレクトロ ニクス	59	78	19	HD:増益 化合物半導体:増益 レアアース:増益
無機	1	△5	△6	セラミックス:増益 電極:減益(数量減、価格低下)
アルミニウム	△1	10	11	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増益(ショウティック:数量増) アルミ缶:前年同期並み
その他	△1	2	3	リチウムイオン電池材料:前年同期並み 昭光通商:増益、昭光通商(上海):新規連結
調整額	△21	△20	0	
合計	43	101	58	

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

■ 全 社

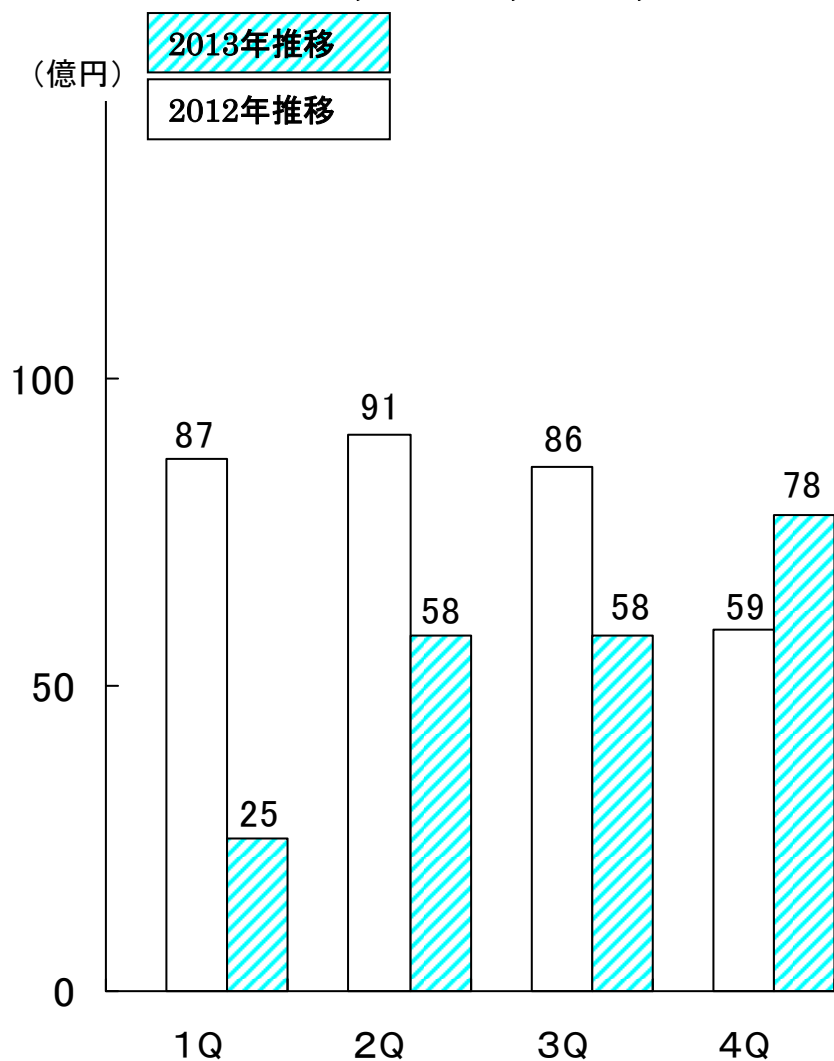


(ご参考)セグメント別営業利益推移

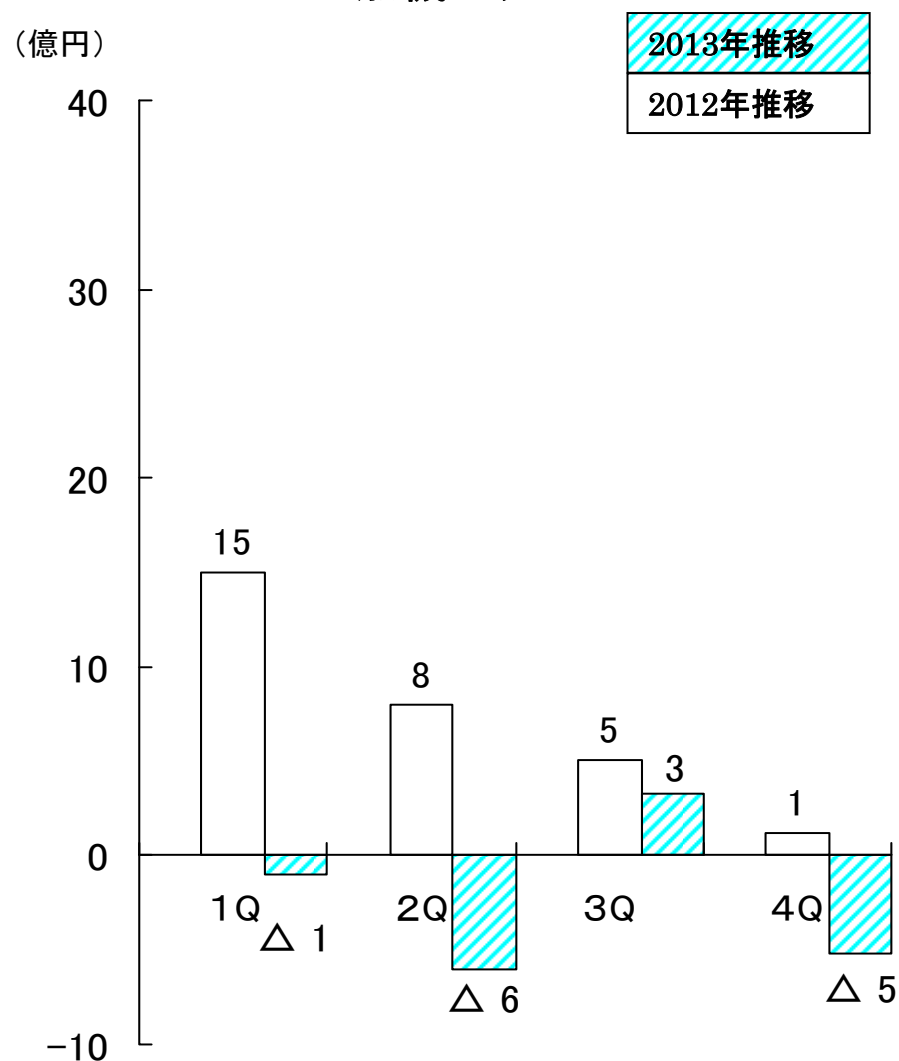


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■エレクトロニクスセグメント

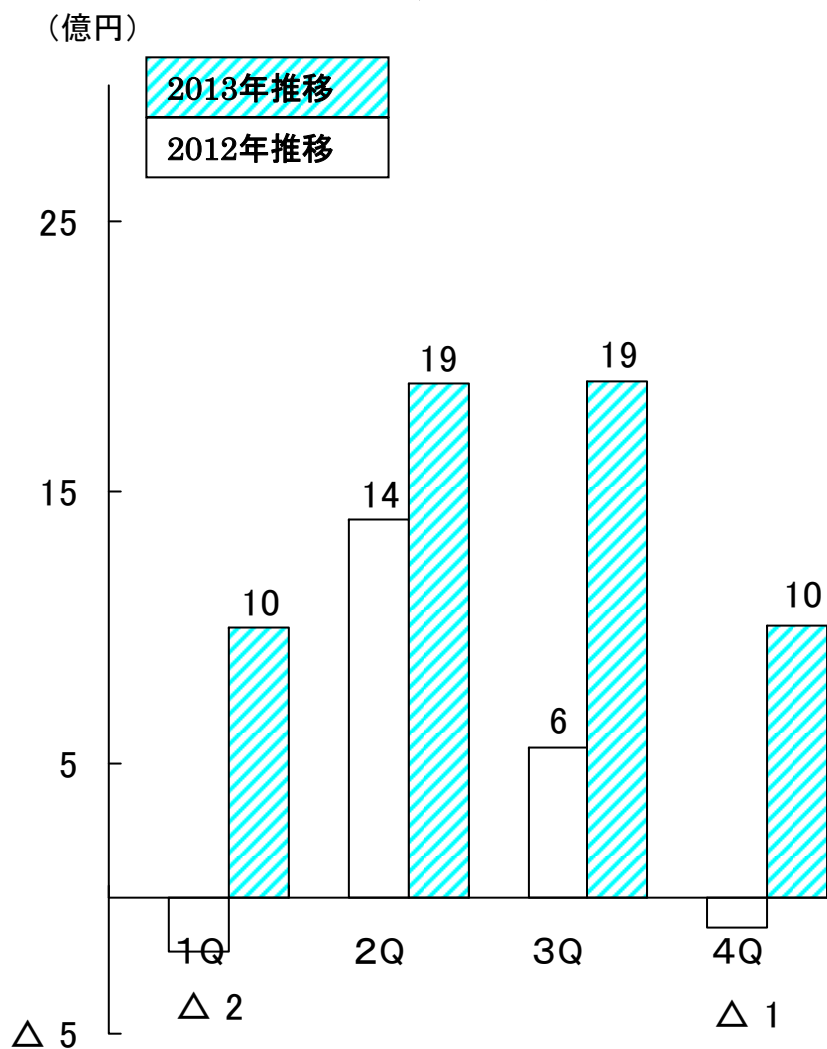


■無機セグメント

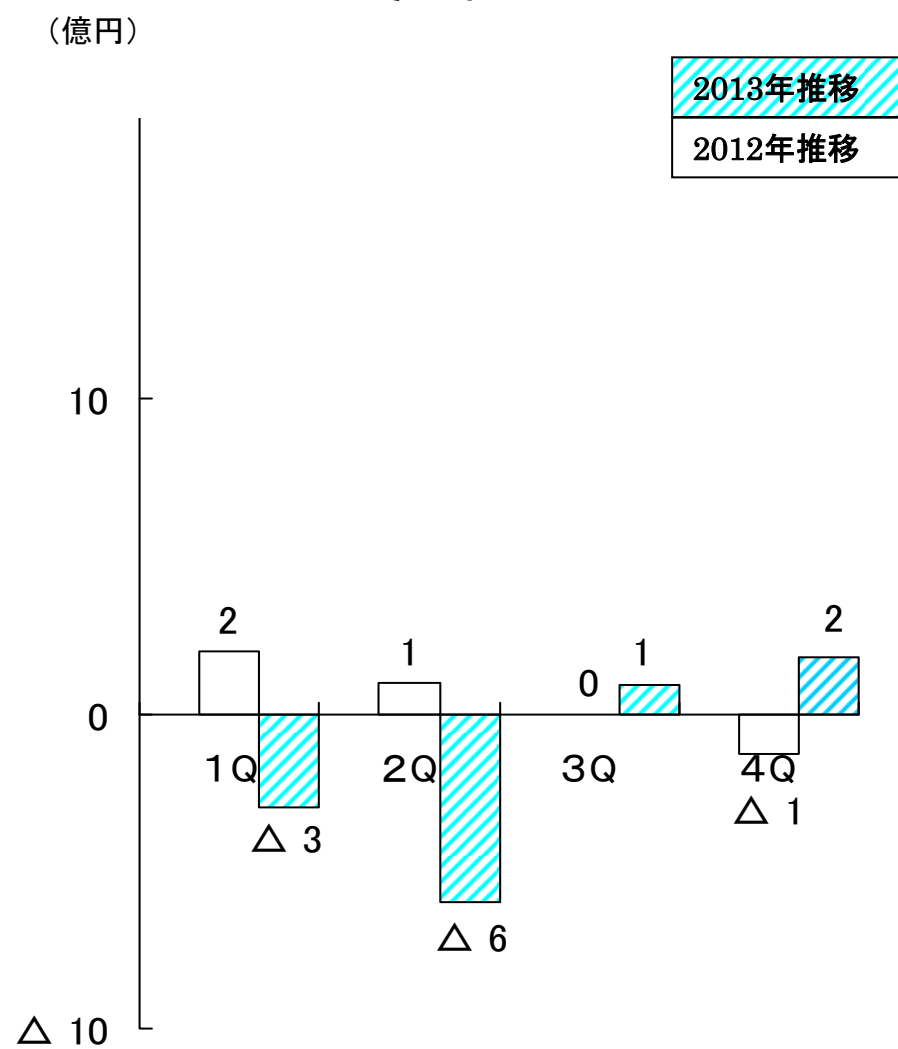


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



セグメント別トピックス

【全社施策】

● ナノテクノロジー素材フラーレンで戦略的事業提携

ナノテクノロジー分野で注目される炭素素材フラーレンの事業化に向けた戦略的事業提携を2013年1月に三菱商事(株)と行い、同社より製造販売会社「フロンティアカーボン(株)」の株式50%を譲り受け、共同運営会社とした。

フラーレンは、直径1nmのサッカーボール状の分子で、有機溶媒に溶解、かつ優れた電子受容性を持つことから、有機薄膜太陽電池の負極材等、エレクトロニクス分野における有望素材として期待されている。

当社は、フラーレンと並ぶナノ炭素素材であるカーボンナノチューブ「VGCF®」で10年以上の量産実績を有しており、「VGCF®」におけるナノ技術の蓄積が本事業に応用できると判断し提携を決定した。今後、「フロンティアカーボン(株)」と共同でフラーレンの事業化に向けて研究開発、マーケティングを進めていく。

● パワー半導体用SiCエピウェハー6インチ品の販売を開始

当社は、パワー半導体用SiCエピタキシャルウェハーで世界最大となる直径6インチ品の量産化技術を確立し2013年10月から販売を開始。

6インチ品の量産は、SiCパワー半導体のさらなるコスト低減を促進することから、データセンターのサーバー電源や地下鉄車両に加え、電気自動車などへも採用が進むことが見込まれる。あわせて4インチ品においても低欠陥化、均一性向上を進めた新グレード製品を開発。

今回の製品ラインナップの拡充に引き続き、さらなる品質向上と生産能力増強に取り組み、4インチ品換算での月産能力を、現在の1,500枚から2014年前半には2,500枚相当まで引き上げる。

セグメント別トピックス

【石油化学セグメント】

●新製法による酢酸エチル生産設備の新設

大分コンビナートにおいて、当社が開発した新製法であるエチレン付加法を用いた酢酸エチル生産設備を新設することを決定した。新設備の生産能力は10万トン／年で、2014年6月より営業運転を開始する予定。

酢酸エチルはインキ、塗料、電子材料、医農薬など幅広い用途で使用されており、今後も国内外で需要の増加が見込まれる。独自開発した固体ヘテロポリ酸触媒を使用する製法により、高品質の酢酸エチルを効率的に生産することが可能となる。

この製法は「第6回 グリーン・サステイナブル・ケミストリー(GSC)ネットワーク経済産業大臣賞」および「第56回日本化学会 化学技術賞」を受賞。今回の設備新設は経済産業省より先端設備投資促進補助事業の採択を受けている。

【化学品セグメント】

●液化アンモニア「エコアン[®]」の東北圏への拡販体制を構築

東日本大震災で被災した液化アンモニアの物流基地(福島県相馬郡)の再建工事を2013年6月より開始した。運営再開は2014年3月の予定。液化アンモニア「エコアン[®]」は、使用済みプラスチックを原料の一部に使用した製品で、大手電力会社からグリーン調達品として認定を受けるなど高い評価を得ている。液化アンモニアは、合成繊維の製造や火力発電所等の脱硝(排ガスに含まれる窒素酸化物の除去)に用いられ、特に火力発電の高稼働が予想されることから堅調な需要が見込まれる。「エコアン[®]」を基礎化学品事業における主力製品として、さらなる販売強化を図るため、物流基地を運営していた100%子会社「丸昭興業(株)」を2013年4月に吸収合併し、当社主体の事業運営とした。

セグメント別トピックス

【化学品セグメント】

● リチウムイオン電池負極用バインダーの量産を開始

リチウムイオン電池の負極用水系バインダー「ポリゾール[®] LBシリーズ」の量産を2013年2月より開始した。本製品はアクリル系合成樹脂エマルジョンで、溶剤系バインダーに比べ、リチウムイオン電池製造時の環境負荷が低く、低抵抗性、優れた温度特性、負極集電板との高密着性などの特長を持ち、リチウムイオン電池の長寿命化、高容量化に寄与する。

バインダーとは、リチウムイオンが出入りする正・負極活物質やその他補助添加剤、集電板を結着させる接着剤の役割を果たす補助部材で、リチウムイオン電池の性能に大きな影響を与えるキーマテリアルの一つとして注目されている。

● ハイシリカゼオライト生産設備の新設

当社と米国UOP社の合併会社「ユニオン昭和(株)」は、当社東長原事業所でのハイシリカゼオライトの製造を決定し、生産設備の建設に着手した。2014年内の商業運転開始を予定。

ハイシリカゼオライトは、吸着材である合成ゼオライトの一種で揮発性有機化合物(VOC)の除去や脱臭に使用され、環境・エネルギー・生活関連分野における世界的な需要の増加によりタイトな状況が続いている。

今回の新設により、特に伸びが見込まれる日本およびアジア地域への安定供給体制を確立し、新規用途への対応力や技術サービス等を強化する。

ユニオン昭和(株)は現在、四日市工場で脱水・乾燥、精製・分離用等の合成ゼオライトを製造している。新設備完工後は2製造拠点体制を活用し、福島第一原発内の汚染水処理や広域除染、廃炉に向けての放射性核種処理のための新製品の開発・供給等も行っていく予定。

セグメント別トピックス

【エレクトロニクスセグメント】

- 当社製植物育成用LEDが採用された「川内高原農産物栽培工場」が竣工

植物育成用LED素子及び高速栽培技術「Shigyo法TM」を採用した「川内高原農産物栽培工場」(福島県川内村)が2013年4月に竣工した。同工場は、外気や病害虫等を遮断し、天候や気温に左右されずに農産物を生産することが可能な完全閉鎖型植物工場で、リーフレタスなどの葉菜類を一日最大8,000株以上収穫できる生産能力を持つ。

今回、植物育成に最適な660nmの波長を世界最高の輝度^(注)で発光できる独自の赤色LED素子と、当社と国立大学法人山口大学が共同開発した高速栽培法「Shigyo法TM」を組み合わせた植物育成システムが採用された。本システムは蛍光灯を使用した栽培方法に比べ2倍以上の収穫が可能で、また発熱も低く空調などの電気代を抑えることができることから、採算性の高いLED植物工場の運営が可能となる。

(注)2013年4月現在、当社調べ

- 世界最大記録容量670GBの2.5インチハードディスク量産開始

2013年11月より、2.5インチサイズとしては世界最大(注)の記録容量となる670ギガバイト/枚(第7世代)のハードディスクの量産を本格的に開始した。

現在、垂直磁気記録方式第6世代(500ギガバイト/枚)の量産を中心に行っているが、今回の第7世代の量産開始により、一層進む大容量化をリードする。

(注)平成25年11月現在、当社調べ

セグメント別トピックス

【エレクトロニクスセグメント】

- ファクトリーオートメーション向けジスプロシウムフリー磁石用合金の開発に成功

ジスプロシウム(元素記号Dy)を使用せずに従来品と同様の性能を持つファクトリーオートメーション向けネオジム磁石用合金の開発に成功し、量産を開始。

磁石は高温下になるほど磁力が弱まる性質を持つが、既存の一般的なネオジム磁石は、ジスプロシウムを添加することで、高温時の磁力低下を抑える。この新合金は、HDD用ボイスコイルモーターや風力発電用モーター向け磁石よりさらに添加量の多いファクトリーオートメーション向けについても、ジスプロシウムフリー化を実現した。また、電動パワーステアリング用や電気自動車のモーターについても、同率でのジスプロシウム添加量の削減を可能とする。

当社は、本技術をベースとしたさらなる省ジスプロシウム化に取り組んでおり、2014年には6%添加品と同性能を持つジスプロシウムフリー磁石用合金を開発し、省エネルギー社会の実現に貢献する。

【無機セグメント】

- 中国黒鉛電極メーカーの子会社化を完了

中国の黒鉛電極製造会社である中鋼集団四川炭素有限公司の持分取得にかかる手続きを完了し、2013年3月に「四川昭鋼炭素有限公司」(中国四川省)として連結子会社化した。

当社は、これまで、日本、米国の2拠点から高品質の黒鉛電極を主に先進市場へ提供してきた。今回、中国拠点を加えることで新興市場向け製品の供給体制を整え、ハイエンドとボリュームゾーンの両市場に向けた二正面戦略を進めていく。

セグメント別トピックス

【無機セグメント】

●インドネシアのアルミナ工場で試運転を開始

2011年4月からアンタム社と共同で行ってきたインドネシア西カリマンタン州タヤン地区での、ケミカル用アルミナの工場建設(年産能力30万トン)において、2013年10月に試運転を開始、2014年下期より量産・販売を開始する予定。ケミカル用アルミナとは、アルミニウム製錬用途以外に使用されるアルミナおよび水酸化アルミニウムの総称で、水処理剤や耐火物、研削材、建築材料、ICパッケージ、液晶ガラスの材料など幅広く産業分野に使用される。

当社は、現在横浜事業所で行っているアルミナの生産から撤退することを既に決定しているが、長年にわたって横浜事業所で培われてきたアルミナ生産技術をインドネシアの新工場へ移管し、市場が拡大する東南アジア地区への供給体制を整えると共に、さらなる事業の拡大を図る。

【アルミニウムセグメント】

●ベトナムのアルミ缶メーカーの株式取得

当社は、2014年1月、子会社昭和アルミニウム缶(株)と共同で、ベトナムのアルミ缶メーカーであるハナキャンズ社^(注)の株式91.75%を取得することで、ハナキャンズ社の主要株主と合意。国内のビール・飲料缶市場は成熟化が進み、アルミ缶市場の大きな拡大が今後望めないが、中国・東南アジアなどの新興国市場は、人口の増加や所得水準の向上により、今後高い成長が期待できる。これら新興国市場の中においても、現在、東南アジア最大のビール消費国であるベトナムでは、ビール需要の急速な拡大が見込まれており、2018年には現在の日本の消費量を超える見通しである。

ハナキャンズ社が持つ確固たる顧客基盤に加え、昭和アルミニウム缶の生産技術および工程管理のノウハウを導入することで、ベトナム市場でのさらなる競争力の強化を図る。

(注)ハナキャンズ社: Rexam-Hanacans Joint Stock Company

セグメント別トピックス

【アルミニウムセグメント】

●高純度アルミ箔の工場を中国に竣工、量産体制を確立

中国江蘇省南通市に現地法人「昭和電工アルミ(南通)有限公司」を2011年11月に設立し工場の建設を進めてきたが、このほど建設を完了し量産を開始した。

アルミ電解コンデンサー向け高純度アルミ箔は、食品包装等で使用されるアルミ箔とは異なり、99.9%以上の高純度アルミを圧延した製品。当社は、堺事業所でアルミの精製から圧延、製品化を一貫して生産しているが、今回竣工した中国工場では、堺事業所から供給される中間製品の最終加工を行うことにより、中国各地のユーザーへ高品質な高純度アルミ箔をタイムリーに提供する。

アルミ電解コンデンサーは、家電製品からIT機器、電気自動車やハイブリッド車、風力や太陽光発電などの新エネルギー分野まで幅広く使用され、今後はエコカーや太陽光発電のパワーコンディショナー向けの需要伸長が見込まれる。

当社グループは高品質の高純度アルミ箔を安定供給することにより、国内のみならず、中国をはじめとするアジアでの事業拡大を進めていく。

●3R推進功労者等表彰にて経済産業大臣賞を受賞

当社は、2013年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰(3R推進功労者等表彰)

「経済産業大臣賞」を受賞。当社グループが、これまで40年以上にわたり行ってきた全社員参加のアルミ缶リサイクル活動が評価されたもの。

このアルミ缶リサイクル活動は、社員の自主的な活動として開始されたが、現在では、各事業所で近隣住民と共同のアルミ缶の回収活動も行われている。また、収益金は地域の社会福祉協議会や歳末助け合い募金、障害者サークルへ寄付されており、地域社会の福祉活動等に活用いただいている。

セグメント別トピックス

【その他セグメント】

●リチウムイオン電池用包材の生産能力を増強

子会社「昭和電工パッケージング株」は、リチウムイオン電池用包材であるアルミラミネートフィルムについて、生産能力増強を新たに決定した。2013年7月に完了した設備増強に、今回決定した追加増強分を加えた一連の工事が完了する2014年末には、生産能力が従来比3倍となる。樹脂とアルミ箔の複合材であるアルミラミネートフィルムを用いたパウチ型リチウムイオン電池は、金属製の円筒型リチウムイオン電池等に比べ、成形の自由度が高く、軽量であり、放熱性にも優れている。これらの特長によりパウチ型の比率は上昇傾向にあり、リチウムイオン電池用包材向けアルミラミネートフィルムの市場は急速な拡大が期待されている。